

こども防災キャンプ

令和3年3月6日(土)~7日(日)

【目的】

災害の状況を想定した活動を体験することを通して、災害に備える意欲を高め、防災についての知識・技能を得るとともに、自ら考え、判断しながら他者と支え合って課題を乗り越える力を養う。

【参加者】

22名（男子12名、女子10名／4年生7名、5年生8名、6年生7名）

【プログラムの内容】

1日目

10:45 はじまりの会

11:00 仲良くなろう

12:00 昼食・昼休み

13:00 みんなで話そう

2日目

9:00 防災のお話を聞こう

10:00 みんなで考えよう

はじまりの会・仲良くなろう



参加者した22名の内、6名は本所の利用が初めてであった。初対面で緊張した面持ちであったため、様々なゲームを通じて、緊張をほぐしていった。少しずつ笑顔や笑い声が増えたところで、グループごとの活動に移行した。ネームリレーやオールキャッチなどのゲームを行ったことで、班のメンバーと仲良くなることができた。

みんなで話そう



東日本大震災からもうすぐ10年が経つことを伝え、避難所生活に必要なものについて考えた。「命を守るために必要なもの」、「生活をする上で必要なもの」、「快適に過ごすために必要なもの」の3つのテーマで個人が考え、それを基にグループで共有し、実際に自分たちで実現できそうなものを精査し、発表した。

参加者は、電池、ラジオ、水、食料、電気、寝る場所、しきり等、想像以上に考えており、活発に話し合いを行っていた。

みんなで準備しよう



シェイクアウト訓練後、電気・ガス・水道が使えなくなった想定で、避難所づくりを自分たちの手で行った。個人のスペースやグループのスペースを協力しながら作ることができた。食事のためのテーブルや靴を置く場所を作ったり、扉や窓を作ったり、4時間近く熱中して作業を進めていった。

みんなで食べよう



夕食は、焚き火台で火をおこし、沸いたお湯でリゾッタやシチュー等の非常食を作って食べた。「非常食を初めて食べた」「意外とおいしかった」等、参加者からの感想が聞こえた。

防災のお話を聞こう・みんなで考えよう



講師に、日本防災士会山口県支部の坂本京子先生をお招きし、災害や天気についてお話をしていただいた。写真や動画を交えてお話をしていただき、災害の怖さが伝わる内容だった。



「みんなで考えよう」では、クロスロードゲームで自分の考えと友達の考えを交流し、様々な考えがあることを予め知ることで、いざという時に対処できるように心構えができた。

【参加者の声】

- ・「もし避難することがあれば、ランタンや机などを作って、みんなの役に立ちたい」
- ・「段ボールは色々なことに使えると思った」
- ・「電気が通らないと不便だけど、ランタンの作り方が分かってよかった」
- ・「協力することの大切さがわかった」
- ・「もしもの時に備え、準備したい」

【成果】

アンケートの結果は、参加した全員から満足度4（最上位評価）をいただいた。避難所づくりをするために班で話し合ったり、協力して準備したりすることで、いざという時に落ち着いて行動することができる素地が養えた。また、今回のキャンプで学んだことや感じたこと、これからしていきたいことの自由記述欄には、災害に備える前向きな感想が多く、災害に備える意欲を高めるといふ本事業の目的を達成したといえる。

【課題】

避難所づくりをしている際に、思ったより暗い中での作業になったため、当初計画していた「みんなで灯そう」のランタンづくりを早めて実施した。その結果、灯りの大切さを十分に味わえなかったと感じたため、プログラムの再検討が必要である。